

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

リビング・ウイル

2017年

1月発行

No. 164

Living Will

No. 164 2017年1月発行

発行 一般財団法人日本尊厳死協会

編集 協会会報編集部

デザイン FROG KING STUDIO

印刷 JPビズメール株式会社

特別座談会

小泉純一郎

元首相

首相の時に
入会を決め、
終身会員になる

- 岩尾理事長 年頭所感
- 療養病床の再編計画進む
- 「熊本復興」市民フォーラム

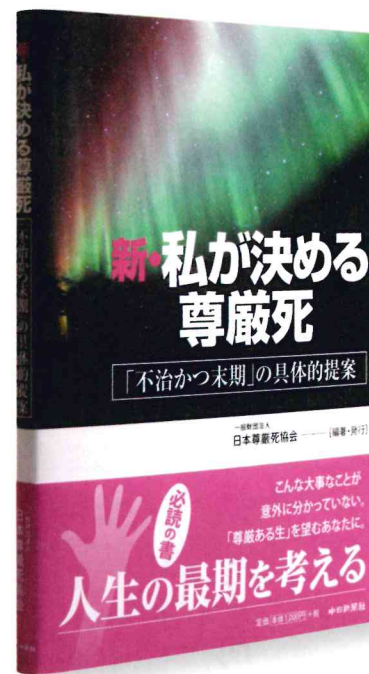
一般財団法人
日本尊厳死協会

出版案内

日本尊厳死協会が会員の皆様にお勧めする必読の書。好評発売中です。

新・私が決める尊厳死「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- **がんの末期** 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す？
- **持続的植物状態** 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら？
- **腎不全** 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら？
- **救急医療** 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは？
- **認知症** 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は？
- **老衰** 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か？

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

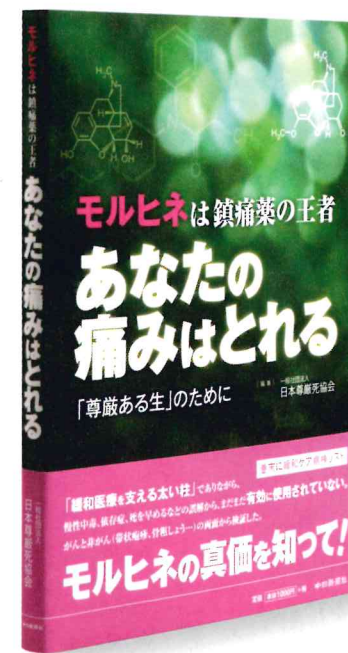
モルヒネは鎮痛薬の王者 あなたの痛みはとれる

編著 日本尊厳死協会 発行 中日新聞社

医療用麻薬のモルヒネ 適正使用で「痛み」はとれる

医療用麻薬を適切に使用した緩和医療は会員の願いです。

- **激痛から解放された**
「痛みが取れ、夜よく眠れて、食欲も出てきた。夢のようです」——モルヒネの投与で激痛から解放された患者の喜びの声です。
- **誤解されているモルヒネ**
モルヒネの「中毒になり、死期を早める」「がん末期にしか使えない」といった誤解は、世界の医学界が否定しています。適正に使用すれば「鎮痛薬の王者」なのです。
- **がん以外の痛みにも効果**
帯状疱疹後神経痛、ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折、パーキンソン病、閉そく性動脈硬化症など、がん以外の痛みにも効果があります。
- **専門医がアドバイス**
執筆者の1人、加藤佳子医師は、「痛みは本人にしか分からない。我慢しないで、医師に『痛みを取ってください』と言いましょ」と呼びかけています。



お求めは協会事務局で

いずれも1100円(税・送料込)。お名前、住所、購入希望本を明記のうえ、代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局(〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501)宛に郵送してください。

会員、元首相

小泉純一郎さん

特別座談会 最期をライオンのように



10年来的会員である元首相、小泉純一郎さんを囲んで協会の岩尾總一郎理事長、鈴木裕也、長尾和宏両副理事長が語り合った。箱根で軽くゴルフをしたあとで、話は最期の在り方から健康法、首相時代のエピソードまではずんだ。

首相時代に尊厳死資料集め

岩尾 本日は小泉純一郎さんをお迎えしました。小泉さんは2006年に終身会員として尊厳死協会に入会されました。会員になられたときは現役の首相で、当時の新聞にも「首相『延命拒否』の協会に」と大きく報道されました。

小泉 ずっと以前からね、お見舞いに行った病院で意識もないのに「スパゲッティ状態」でいる人を見かけることがあって、あれはよくないと思っていた。昔の人は治療の手立てもなく、食事も摂れなくなったら老衰で死んでいった自然とね。できたら自分もそうありたいと思い、尊厳死協会の資料集めもしました。食事を絶って、痛みだけ消してもらって死にたいなあという気持ちからです。

岩尾 食事を絶ってというのは強い思いのようですが……

小泉 私は動物のドキュメンタリーが好きで、ライオンの生態を長年追った記録映像が強く印象に残っている。メスや子の群れを引き連れたオスのボスライオンもだんだん年とって老いてくると、放浪の若いオスとの闘いに敗れて群れを乗っ取られる。深手を負ったボスはエサもとれないから、群れを離れたところでじっとして目から鼻から寄生虫にたかられながら私おうともせず、死んでいく。絶食状態では痛みを感じないじゃないかね。ああいう動物を見ていると、自分でエサを摂れなくなったから自然に死んでいくんだよ。大自らの摂理だ。



いわお・そういちろう／日本尊厳死協会理事長、医師。元厚生労働省医政局長、慶應義塾大学医学部客員教授。1947年生まれ、慶應義塾大学医学部卒。(右2人目)

すずき・ゆたか／日本尊厳死協会副理事長、医師。元埼玉社会保険病院院長。1943年生まれ、慶應義塾大学医学部卒。(右端)

ながお・かずひろ／日本尊厳死協会副理事長、医師。「長尾クリニック」(兵庫県尼崎市)院長。1958年生まれ、東京医科大学卒。(左端)

それに比べて人間は自分で食べられなくとも流動食があるし、介護してくれる人もいるからね。私も自分で食事ができない、酒も飲めなくなったら、昔の人みたいに静かに死ねればいいと思っっている。私の祖父(又次郎氏)元衆議院議員)はね、86歳のとき昼間は遊んでいたその夜に死んでいった。——昨年8月に亡くなられた小泉さんの姉、小泉道子さんも10年来の会員でした。

小泉 姉は84歳でした。私の長男、孝太郎(俳優)、次男の進次郎(衆議院議員)が幼かったころから母親代わりをつとめてくれて、ほんとうにうちの黒柱的存在だったんです。だんだん食事が摂れなくなっていました。最後まで意識はしっかりして、私が見舞った翌朝、穏やかに永遠の眠りにつきました。延命治療を控えて痛みだけはとってくださいとお願ひし、医師もわかってくれました。

枯れて痛み和らげれば

鈴木 神様は寿命が来たときには苦しまずにしてくれている。実は私の母親もそうでした。私は講演会でよく「秋にはコウロギは全部死ぬが、のたうちまわっているのを見たことがないでしょう」と話します。

小泉 食べられなくなったら自然の経過に委ねれば痛みを和らげる作用があるのではないかね。

岩尾 長尾さん、医師サイドからすると栄養補給など何もしないというの「餓死で死なせることになる」という人が結構いますね。

長尾 私は在宅医療をやっており、これまで千人ぐらいの患者さんを診てきました。食べられなくなるのだんだん細ってくるのを自然の経過に任せると、おっしゃったように痛みがなく、あっても知れている。ゴツツイ痛み止めを使わなくていいんです。

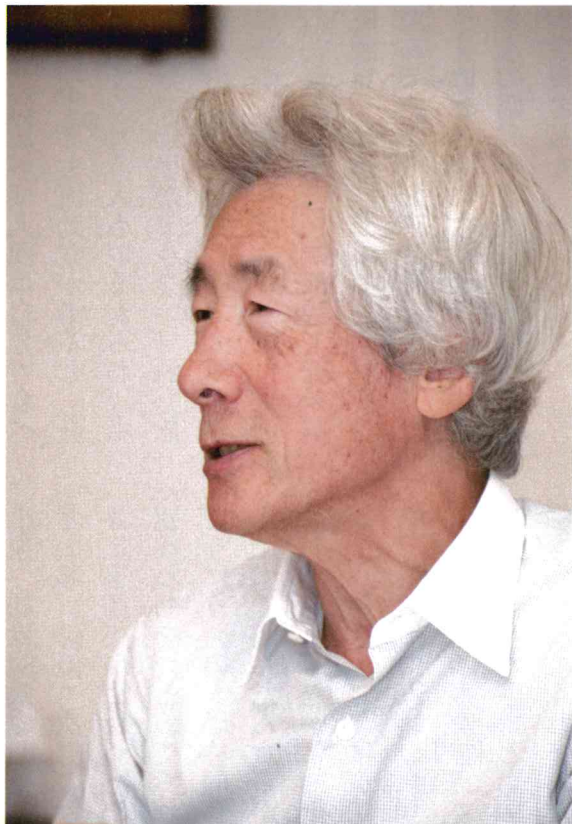
ところが病院にいくといっぱい栄養補給するから苦しむんです。

で、たくさんモルヒネを使って最後は半分くらいは鎮静剤で人工的に眠らせる。意識があるのにな。がんでも老衰でも何かを口にしています。そこで少しずつ枯れていくと苦痛が少なくなります。たくさん栄養をやり過ぎると、体が受け付けず、苦しみながら早く死ぬんです。私はそういう本をたくさん書いています。

噛むかむ健康法

小泉 それがいいなあ。ところでいまは80歳すぎても元気で歩き、ゴルフしている人が大勢いる。私らが若い時分には思いもよらなかったが。

私の親父（純也氏Ⅱ元防衛庁長官）は65歳で肺がんで亡くなったから自分も65歳までは一生懸命現役でがんばり、それを過ぎたら国会議員も引退しようと前から考えていた。その後はね、何歳まで生きるかわからないけれど、できた



ら祖父みたいに座布団挟んで孫と花札でコイコイして遊んだり、朝顔をつくったり盆栽をいじったり。ああいう生活がいいなあと思ってた。いま考えてみて、70過ぎて結構元気でいる。

鈴木 子どもというのは親の死んだ年齢を気にするものです。

小泉 それでね、元気でいるには体操もいいなあと思って、親しい人から真向法がいいですよと言われて半年前からやりだした。4種類の運動で腰や背中の筋を伸ばすわずかな運動ですよ。最初はモモ

や足の筋は痛くなるしできなかった。先生についているわけがなく、本を送ってもらって写真の通りに運動をやっているうちに、柔軟体操みたいなのができるようになった。

——箱根で車を降りてからの小泉さんの歩幅には感心しました。

小泉 もともと歩くのは早いんだ。それでね、よく年寄りに歩かないと骨粗しょう症になるというけれど、歩けなくなる前によく歩いておきなさいと言いたい。骨粗しょう症になってからメザシとか小魚

がいいから食べろといっても、そりゃ無理だ。食べれるうちに栄養バランスを考えて、たまには肉を食べてね。

私ね、家族に食事に厳しい食事療法の先生がいたんです。その先生がしょっちゅう家に遊びに来ていて、子供のころおなかをこわしたとき「お粥は必要ない。普通のご飯を甘くなるまで噛みなさい」と教えられた。ご飯でも肉、魚、野菜でも噛んで、噛んで噛めば必ず甘くなる。そうすると唾液が出て胃腸にもよい作用がある。

鈴木 それは医学的にも正しいです。ご飯をよく噛めば胃の中ではいいお粥になる。

小泉 夏の会合などで弁当が出て少し匂いがある場合がある。出されたものは食べないわけにいかないから、そういうときは甘くなるまで噛むとお腹をこわさない。（笑い）甘くなるまで噛んだ人はほとんどいいんじゃないだろうし、みんな知らないんじゃないか。私はいまでも食事はできるだけ噛むようにしている。

大雑把でいい、わかれば

岩尾 外側から見ていると、首相経験者は就任したときと比べ辞められるときの顔がなんとなく険しいですね。仕事のなせる業でしょうが、小泉さんはいまの方が元気で若返って見えます。

小泉 それはそう、はるかに元気ですよ。総理を辞め、重庄と束縛から解放されて10年がたちますから。総理時代はゴルフだって1回もやってなかった。体操とか運動をする気もないもの。毎日疲れて、寝て、朝は目覚まし時計に早く起こされ、うーん二度寝もできないしね。目が覚めれば国会での答弁資料を読んでき。

岩尾 小泉さんは国会でもあまり答弁書通りにお答えになつていなかったみたいですね。

小泉 いちいち読み上げるのは少なかったね。でも答弁書は事前に一応読んで頭に入れ、全体を間違えないようにしていた。外務、厚生省などが想定問答集を作成する

が、野党の質問趣意が届くのが遅いから徹夜作業になる場合が多い。あるとき、俺たちは徹夜で用意しているのに総理はちっとも読んでくれないという不満を聞いた。いや、想定集を読んでいるから大体こういうことかと理解でき、自分の言葉で答えられる。心配するな、だから失言しないんだ。（笑い）

岩尾 私の厚生省の経験から、総理になられても大体読み流すなあと理解していましたけど。

小泉 大雑把でいいから、わかりやすく自分の言葉で国民に向かい合う方がいい。いまちょっとしたぶら下がり取材でもペーパーを読んで説明する大臣をテレビで見かける。あれはよくない。

鈴木 その束縛から解放されて、（飲む仕草をして）こっちの方はどうですか。

小泉 毎日飲んでいます。私は顔に出ないたちですが、昔から謡われるように大体2ゴウまで（笑い）。



酒気帯び会見もあった

酒というと、あの郵政解散の8月8日（2005年）のことを思い出すなあ。

参議院本会議で郵政民営化法案が否決されて国会解散となるのですが、夕方6時から経団連幹部らとの会合が入っていた。数か月前からの約束で止めるわけにいかないので、「一緒に食べながらということでは会食弁当が出た。弁当のおかずがおつまみにびったりだ。で、顔に出ないから大丈夫だと日本酒

を出してもらった。もうやめた方がいいですと言われながら、2、3合飲んだ。それから夜8時に郵政解散の記者会見をやったんだが、実は酒気帯び会見だった。今だから言えるけどね。

鈴木 毎日少しずつでも酒を飲めるのは健康の証しですね。

小泉 私ね、2006年の9月に総理を辞めてからしばらくして健康診断を受けたら、血糖値が主治医もびっくりするほど上がっていた。そういえば総理を辞めてからずーっと外食ばかりで肉とかばか



り食べていた。それから3か月、家でほとんど野菜ばかりを煮たり炒めたりして食べた。まあ8割は野菜で過ごしたら、正常値に戻っていた。食事が健康のためにいかに大切かとわかった。

百寿6万人とはすごい

岩尾 小泉さんは新年早々75歳を迎え、後期高齢者となります。年齢の区切りを意識しますか。

小泉 いや、全然意識しないね。いまは年齢に関係なく元気な高齢者が増えたしね。私が初めて厚生大臣になる前年の昭和62年（1987年）に百歳長寿者が2千人を超えたが、いまは6万人を超えている。すごい時代だ。その8割が女性だという。個人的に思うんだが、男性に比べて暴飲暴食しない、家で休養が多いからだね。（笑い）厚生大臣の時に、健康の秘訣はまずバランスとれた食生活、2番目に適度な運動、そして十分な休養とっていた。特に休養がいいというのは自分も引退してからの経験でよくわかったよ。

長尾 長生きに女性が多いのは遺伝子で決まっていることとして、ご意見にはびっくりします。

岩尾 いま百歳で健康長寿を実現した方を「センテナリアン（centenarian）」と呼ぶ言葉が生まれているほどです。ストレスの少ない人が多いようで、健康長寿の秘密の解明も幾つかの医学部で取り組んでいます。

——協会会員の百歳長寿者は272人で、女性が204人。90歳代の会員は1万人を超えます。

長尾 町医者のが私が看ている百寿者もいま10人位おられ、全員が在宅医療です。なぜ百歳まで到達できたかという、死ぬような病気にかからなかったからです。日本では百寿者の8割が要介護状態と言われています。高齢者は筋力や活動性が次第に低下し、この状態を「フレイル」と呼び、ここから要介護状態になることを防ぐ方策が検討されています。フレイルの判定の一つに歩行速度がありますが、小泉さんのあの足早ならこれからも大丈夫ですよ。

3・11で私の余生変わった

岩尾 日本は超高齢社会にあり、2025年には高齢者人口が3500万人とピークを迎えます。これだけ多くの方が年を取って生きていくときに、やりがいを持つことは健やかに生きるために大きい。ただ病院に寝ているだけというのは、自分の人生、自分の物語を閉じるにしては少し寂しいなあと思いますね。

小泉 先ほど話したように私も親父の年齢を意識していたが、幸いにして59歳で総理大臣になって64歳で辞めた。あとは余生だと思っていたが、まさかその後「原発ゼロ運動」にこれだけ情熱を燃やすとは思ってもみなかったね。人生の残されたやりがいというか。

終章に生きがいあれば

鈴木 それは人生の最期の充実感に通じ、何であれ、やりがいを持てることは非常によいことです。

小泉 誰でも年をとっても自分が

楽しいと思うことをやりたいでしょう。読書、ゴルフ、花札だっていい。最近、男性で料理をやる人が増えている。私は若い時から1日何か読まないといられない習慣がついて、いまは好きな小説を自分の時間のなかで心ゆくまで読めるのがいいね。好きな本だとどんな進む。不思議だね。

岩尾 よく国会演説で上杉鷹山とか越後の長岡藩のお話を挟まれましたが、読書から得たものですか。

小泉 時代小説、歴史小説が好きだからね。ただ2011年3月11日の東日本大震災の前の話で、福島第一原発事故が起きて以降は、講演を頼まれると「日本は原発なしでもやっていける」という話をしている。自分で原発の勉強をして、いままで原発推進者が言っていた「原発は安全、コストが一番安い、永遠のクリーンエネルギー」という三大スローガンが偽りだとわかった。いま講演は大体80分か



こいずみ・じゅんいちろう

元首相（2001年4月～2006年9月）。30歳で代議士となり、厚生大臣、郵政大臣を歴任。派閥に頼らず自民党総裁選に立候補、「自民党をぶっ壊す」発言などで「変わり者」視されたが、本人は「常識人」と。首相となって「郵政解散」をバネに持論の郵政民営化を実現。政界を引退して「3・11」後は、「原発ゼロ」運動で飛び回る。1942年生まれ、慶応義塾大経済学部卒。

構成／編集部 写真／八重樫信之

多死社会こそLWに存在感を

理事長 岩尾總一郎

新年明けましておめでとうございます。

日本尊厳死協会は設立41年目を迎えました。協会が歩む今後10年は、わが国が「超高齢多死社会」へ向かう道程とも重なり、リビングウイル（LW）の重要性はますます高まります。50周年に向けた協会の方向性は、今春発行の会報特集で示すことにしておりますが、ここでLWをめぐる状況について若干述べさせていただきます。

ここ数年、医療、介護、広く社会保障にかかわる「2025年問題」が話題になってきました。10年後には団塊の世代が75歳以上に



なり、高齢者人口は3500万人とピークを迎えます。国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という「超高齢社会」になるのです。

LWは超高齢社会に必需

統計調査からは、年間死亡者は現在より30万人多い160万人に

達し、うち90%が高齢者と推測されています。「多死社会」の出現です。

この「超高齢多死社会」は、高齢者がどこで、どう死ぬかの問題を投げかけています。人生の最終段階を迎えた人たちが「穏やかな最期」を迎えられる基本は「個人の尊厳」と「患者の意思」が尊重される社会の実現にかかるとは言うまでもありません。

そしてLWは、個々人が「最期の医療をどうしたいか」、つまり「最期をどう迎えたいか」を家族や医療側に伝える一番大切なメッ

セージなのです。これまで協会に登録された会員数は約25万余、うち半数が現会員です。

実効性高める工夫

協会LWは、本人の自律性に基づく終末期医療に備えた意思表明書として社会的にも高く評価されてきました。しかし、複雑になる社会事情に対応するための実効性を少しでも高める工夫は必要と考えます。

協会は2015年、外部有識者を交えた「協会発行のLWに関する検討会」報告書を公表し、事前の意思表明で考慮すべき諸要件と

して①自己決定する意思能力の証明、②意思継続の確認、③意思能力の衰退時・消滅時の対応、について問題を提起しています。解決策として、LW作成時の証人や家族・親族を含む代理人の選任を明確にすべき時期に来ていると思っております。認知症800万人時代を認識してのことです。

協会の「ご遺族アンケート」では、「会員のLWが最期の医療に生かされた」割合は長年、9割台を維持しています。これは40年間、人間の生と死を考え、LW普及に先駆的に取り組んできた協会の存在意義が大きかったことの表れです。残る数字に「穏やかな最期」の障害となるものがあることは事実ですが、協会は医療界にLW受容意識を高めさせる努力を続ける覚悟です。

自治体、医師会発行も

LWが社会的に認知されてきたことに関連する新しい流れがあります。

現在、多くの病院で協会と同趣旨の事前指示書が入院時の医療計

画に組み込まれています。また地域の医師会や地方自治体にもLWなど独自の意思表明書を発行する事例が出ています。最近、こんな話を聞きました。

神奈川県横須賀市は、地域医療包括ケアシステムのなかで「最期までおうちで暮らそう」に取り組み、市民ガイドブックに意思表明書2例を紹介し、その一つが尊厳死協会LWでした。ところが市独自LWを発行する計画が進んでいるそうです。

市が紹介するもう一例は国立長寿医療研究センター病院（愛知県大府市）のLWを含めたACP（アドバンス・ケア・プランニング）です。将来の意思決定能力低下に備え、自分に代わって意思を伝えてくれる人の情報などを患者、家族、医療者が共有できる全体的ケアプランニングです。

協会LWの紹介コーナーが一つ消えることは残念ですが、地域に新しい取り組みが生まれることは歓迎すべきことです。各種LWが世に出るように意思表明の必然性は高まってきており、超高齢多死

社会へ、LW時代の到来をすら予感されます。

協会LWの模索と具体化は今後10年の方向性に含まれる大きな項目と考えています。

日医・生倫懇に参加

最後に、昨年11月から日本医師会の第15次生命倫理懇談会が始動し、私も委員の一人として参加し

ていることを報告します。横倉義武日医会長の諮問は「超高齢社会の終末期医療」についてで、11月に答申が出されると思います。私も協会40余年の歴史の成果を踏まえ、LWの普及はもとより、終末期医療における患者の意思尊重と実効性の担保を、強く医療関係者に働きかける所存です。今年もよろしく願います。

元首相小泉純一郎氏 協会顧問に

元首相、小泉純一郎氏が日本尊厳死協会の顧問に就任することが、昨年11月17日開かれた理事会で承認された。1月1日から任期は終身。

小泉氏は神奈川県横須賀市出身、74歳。祖父から進次郎氏（小泉氏次男、衆議院議員）まで4代続く政治家家系の3代目。

2001年4月から2006年9月まで首相を3期務めた。首相時代に協会会員になっている。協会顧問はこれで5人となった。ほかに牛尾治朗（ウシオ電機会長）、扇千景（元参議院議長）、奥田碩（元トヨタ自動車会長）、吉永みち子（作家）の各氏

LWのひろば

当欄が縁で心ほっこり

鏡淳子 77歳 山形県

昨秋発行の会報「LWのひろば」に載った愛媛県山田良子さん(89)の「平成の『坂田の金時』」を、同感の気持ちで読ませていただきました。昨今の心曇るニュースの多いなか、どんなにか多くの方々に安堵感と勇気や希望を与えたことでしょうか。

私は最後の趣味として、「川柳やまがたの会」に入会させていただき、月に1度、ベテランの皆さんに刺激を受けながら川柳を楽しんでいます。行方不明の大和君無事発見と聞き、「六日ぶり 山で発見 子に学ぶ」

を作りました。そこで、この句を色紙に書き、協会を通じて山田さんにお送りしたのです。すると早速、山田さんから電話があったのでした。投稿も起承転結の素晴らしい文章で感心していましたが、お電話の声も羨ましい限りの若々しい響きで、無駄のないお言葉でした。

また、一筆で遠近感を表現された「宗旦むくげ」の色紙絵と可愛い赤ちゃんの絵を送っていただきました。人間、年ではないですね。素晴らしい生き方をなされている方との心のふれあいに、心がほっこりしています。生きる今 数えきれない お陰さま

新年を迎えて、「喝！」

日向勇剛 88歳 北海道

平成29年。退職教員の私は、多病、半息災でやっと生きている。

杖を使い、長歩きはできないので、決まったタクシー会社を使う。馴染みの運転手から「先生、長生きしてくださいね」と言われる。「どうして？」と聞くと、「会社が困ります」とのこと。その時、社会の皆に助けられ、生きていることを自覚する。家族と向こう三軒両隣りが平和であれば、こんなうれしいことはない。

雀の涙の年金で暮らしている。その範囲内で、毎日の朝食においしいトマトジュースを飲み、「うまい！」と叫ぶのが、私達の合言葉である。

退職後に大病(脳腫瘍)を患い、オペをしたが、後遺症のため五感のうち満足なのは、味覚と触覚だけである。快食、快眠、快便に加えて、「快判断」が肝要である。リビング・ウイルの会員になってから、手前味噌かもしれないが、頭脳まで良い方向に向かっている。

表題の「喝」は自分に言い聞かせているもので、他人様に申している文言ではない。

子供にも話しています

志田瑛子 85歳 東京都

何人もの肉親を送り、色々の思いがあつて、私は20年ほど前にリビング・ウイルに入会した。

主人は入会せず、78歳で亡くなった。私は看取りが不安だったが、老介護のため、ホームに入居して8か月、明け方、1人で眠るように逝ってしまった。

傍にいなかった自分を責め、毎日泣いた。

でも、「日葉」とはよく言ったもので、三回忌を過ぎたこの頃は、主人に感謝し、住む所があり、食べていけること、淋しいぐらいは仕方ない。

今度は自分の番。忙しい子供たちに迷惑かけない様にと願うばかり。神様の決められることで、時折、早く逝きたいとも思うが、それまで何とか穏やかに日々を過ごしたいと願うこの頃ではある。

リビング・ウイルのことは、子供にも話し、会員証を持ち歩いている(少しばかりのお小遣いも入れて)。もう、母の亡くなった年齢を越えてしまった。

50代で入会、早くはない

多田圭子 52歳 東京都

2015年5月、末期がんの父を自宅で看取ったことをきっかけに、同年、終身会員になりました。私は独身で子供もいないため、自分の最期は自分で決めたい、また決めなければいけないと考えるようになりました。今は尊厳死協会への入会で、大きな安心を得たと思います。50代での入会ですが、決して早いとは思わないのです。協会への感謝とともに、尊厳死の法整備が1日も早く整ってほしいと心から願っています。

編集部より

● 投稿の募集

テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの知恵」など自由。800字以内で。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.com)で。

● 写真の募集

4月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送。選者は日本写真家協会の八重樫信之氏です。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは2月15日です。

霊峰富士 東京湾アクアライン
「海ほたる」から
撮影/高橋利夫さん
(関東甲信越支部)

八重樫先生のここがポイント

都会的な風景の中に富士山を
ドーンと配置したため、
広がりを感じさせる構図となりました。



湘南の海に眠る

林原千晶 68歳 静岡県

4年前に妹、一昨年に母、昨年は父と、4人家族のうち3人を立て続けに見送った。母は幻覚の激しいレビー小体型の認知症で、父は脳血管障害からくる認知症だった。

父は本人の強い希望もあり、自宅で介護し、親族がベッドを取り巻い

て見守るなか、安らかに息を引き取った。見事な大往生は、思い起こす度、感動を覚える。

父の四十九日に横浜の実家に親族が集まり、散骨の準備をした。玄関の三和土に置いた父と母の骨壺をみんなで囲む。先ず合掌。それから一握りづつ、2つの壺から骨を手に取り、敷物の上で混ぜ合わせて、金槌で細かく砕いていく。最後は播り鉢でさらにパウダー状にして、水溶性の紙袋に人数分、小分けにした。

散骨の日、両親の好きな湘南の海は快晴の青空の下、輝いていた。両親は稲村ヶ崎のレストランから眺める江の島と箱根の山々の背後に控える富士山を愛でていたものである。

「葬送の自由を進める会」がチャーターしてくれたヨットで江の島沖へ。散骨地点で、親族一同は遺灰の紙袋と花びらを海中に投げ、暫し黙祷。それは、介護の日々に涙のように溜まった負の感情が一瞬にして消え去った時でもあった。

菩提寺のない両親のために、昨春から2人と妹の写真を携えて四国の歩き遍路に出た。大学の非常勤講師の仕事があり、区切り打ちだが、70歳を目途に巡り終えるつもりである。

被災地から力強く LW普及は続く

2回の震度7に見舞われた熊本地震から半年後の2016年11月5日、第8回日本尊厳死協会くまもと市民フォーラム（熊本県、熊本市など後援）が予定通り熊本市内で行われ、全国の協会会員に「熊本復興」をアピールした。

第1部は、熊本市保健所医療政策課の中林秀和主査が、同市作成の冊子『メッセージノート 人生の最終段階に受けた医療とは』を紹介した。熊本市版の事前指示書（リビング・ウィル）で、同年2月に作成し、市民に配布中だ。『ノート』は、「心に残る思い出」「最後に食べたい食事」などを記入するエンディングノートの要素も盛り込み、最期の医療のイメージが浮かぶように具体例を紹介し、人工呼吸器や心肺蘇生などの延命措置を易しく説明している。そのうえで、「ノート」に付け

た「『人生の最終段階』に受けた医療（私の想い）」に記入するよう勧めている。A4版1ページの用紙で、延命措置の希望の有無、「口から食べられなくなった時」の栄養補給（点滴、胃ろうなど）の要望を示す。「私の想いを伝えている人」（緊急連絡先）と「かかりつけ医」を記す欄があるのも特徴だ。

「九州支部くまもと」は、事前指定（指示）書の普及に力を入れ



相手を演じる理学療法士と「患者」を相手に熱演する吉田仁爾さん（右）

てきた。第7回市民フォーラムでは、全国に熊本宣言「終活に事前指定書を備えよう」を発表した。

安藤正幸会長は、「市民に尊厳死思想の普及を目指すフォーラムの積み重ねで、地元はその土壌が作られ、行政がリビング・ウィルを先行した」とみている。

会員に拘らない「市民に開かれたフォーラム」の姿勢は、「寸劇」

の上演にも表れている。講演の内容をよりよく理解してもらおうと、吉田仁爾「九州支部くまもと」副会長（表参道吉田病院院長）が脚本を書き、自らも出演している。この日は第2部の吉田さんの演題「尊厳死の側面」に合わせた事前指定書がテーマ。同病院職員が扮する「末期がん患者」と「医師」吉田さんのやりとりが、時に会場の笑いを誘った。

文と写真 編集部・清水勝彦

くまもと市民フォーラムの8年

- 第1回 ●2009年9月26日（参加267人）
講演「生命倫理とともに考える医療」
講師：浅井篤熊本大学教授
シンポジウム「終末期をどう生きるか」
- 第2回 ●2010年5月8日（参加380人）
講演「楽しく長生きするために」
講師：大田満夫・九州支部長
寸劇「医療現場から」
パネル討論「事前指示書で尊厳死を守れるか」
- 第3回 ●2011年9月24日（参加273人）
講演「こころ豊かに生きるために」
講師：榎林康子 グリーフケアカウンセラー
寸劇「若い病院スタッフの会話」
シンポジウム「心のケアを考える」
- 第4回 ●2012年10月8日（参加230人）
講演「あなたが不治の病になった時」
講師：吉田仁爾・表参道吉田病院長
寸劇「歳の差夫婦の会話」
講演「老後を健やかに生きるために」
講師：菅守隆・済生会熊本病院センター長
- 第5回 ●2013年10月12日（参加230人）
講演「認知症と尊厳死」
講師：吉岩あおい・大分大学病院講師
講演「認知症患者の治療方針で苦慮した症例」
講師：田中不二穂・表参道吉田病院副院長
- 第6回 ●2014年11月13日（参加154人）
講演「我国の尊厳死の現状 —LW法制化を巡って—」
講師：安藤正幸・くまもと会長
講演「宗教だから救えること」
講師：糸山公照・臨床宗教師
- 第7回 ●2015年9月26日（参加193人）
講演「我が国における終末期の諸問題」
講師：岩尾総一郎・協会理事長
パネル討論「あなたが決める医療とケア —事前指示書はどう生かされるか—」
- 第8回 ●2016年11月5日（参加153人）
講演「人生の終末段階における医療 熊本市の取り組み」
講師：中林秀和・熊本市保健所医療政策課主査
寸劇「佐藤さんの人生」
講演「尊厳死の側面」
講師：吉田仁爾・くまもと副会長

四国支部 エンディングノート講座

周辺情報の提供に取り組む 「会員のメリット」第一に

「尊厳死の話をする、必ず財産のこと、介護の心配、どこで亡くなるか、といった問題が出される。尊厳をもつてハッピーに人生を終えるためには、終末期だけでなく、こうした周辺のことも重要だ」

四国支部は、野元正弘支部長（愛媛大学大学院教授、神経内科）の発案で、様々な分野から講師を招く「エンディングノート講座」を始めて、今年5年目を迎える。

6回目の昨年10月13日、テーマは「もしもの時にあなたを支える制度について」。松山市内の支部事務所11人が集まった。

「思いやりねっと」

講師はNPO法人「和道」の堀田学理事（社会保険労務士）。「和道」は、高齢者らのために財産の管理や身元保証、もしもの時の手続きなどをサポートする「思いや



堀田さんの話に耳を傾ける参加者たち／松山市内の支部事務所

りねっと」を運営している。

堀田さんは「和道」が使う「認知症になっても自分らしく生きるために」と題した「問診票」を紹介した。10ある質問項目には、「治らない病気なら延命治療はして欲しい」と望みますか」という質問も。ここにチェックした回答者には、「リビング・ウィル（医療に関する事前指示書）の作成」を

エンディングノート講座の歩み

- 第1回 ●2013年7月24日
相続について知っておきたいこと
講師：吉村紀行支部理事（弁護士）
- 第2回 ●2013年11月13日
終の棲家と施設：あわてないために
講師：守谷祐氏（介護支援専門家）
- 第3回 ●2014年2月19日
知っておくべき葬儀の知識
講師：池永英夫氏（愛媛県葬祭事業協同組合）
- 第4回 ●2014年6月25日
知っておきたい成年後見人制度
講師：田之内貴志氏（行政書士）
- 第5回 ●2014年9月17日
知っておくべき認知症と尊厳死について
講師：木村尚人支部理事（松山記念病院代表理事）
- 第6回 ●2016年10月13日
もしもの時にあなたを支える制度について
講師：堀田学氏（NPO法人和道）
- 第7回 ●2016年12月15日
自宅で迎える最期に必要なこと
講師：黒川理恵子氏（エンディング支援センターえひめ主宰）
- 第8回 ●2017年3月8日
介護を学ぶ—在宅での看取り—
講師：金田由美子氏（愛媛県在宅介護研修センター長）

※支部事務所、午前10時から1時間

勧めるアドバイスを用意している。相続や遺産、葬儀の質問もある。こうした団体の存在を知らなかった参加者から、「来てよかった。勉強になった」の声も聞かれた。

地域でネットワーク化

「エンディングノート講座」は、終末期に関わる県内の各団体のネットワーク化につながった。「BS21エンディングカウンセラー協会」や、昨年末の第7回講座の黒川理恵子さん主宰「エンディング支援センターえひめ」とも交流をもつ。

講座のテーマ選びには、事務所で開く月2回の「サロン」での話が参考になっている。実は、昨年

の第5回「日本リビングウィル研究会」に俳優の近藤正臣さんを招くことができたのは、「サロン」の参加者から「近藤さんは会員。女性誌でも話している」と知らされたのがきっかけだった。

好調に始まった講座だが、支部予算の関係で2015年度は中断せざるを得なかった。費用をけけずに宣伝するために、地元の新聞、テレビ、フリーペーパーの催事欄を活用するなど、事務局スタッフの地道な努力と工夫が続く。

四国支部は、「協会がこうした勉強の場を提供することは、会員のメリットになる」と位置付け、これからも続ける予定だと言う。

文と写真 編集部・清水勝彦

終末期に必要な情報提供

東海支部（小林司支部長）の第3回リビングウイル研究会東海地方会が昨年10月16日、「最期はどこで 自分らしい終章を求めて」をテーマに、名古屋市内の愛知県医師会館に72人が参加して開かれた。同県医師会、名古屋市医師会との共催。中日新聞社後援。

「みのかも西クリニック」（岐阜県美濃加茂市）の益田雄一郎院長は、最近出版した『死に方』教本』を基に基調講演「高齢者の終末期ケア」を行った。

「高齢者がどのように死に向かうのか、その過程で本人はどんな選択を迫られるのか。ほとんど知られていない」ことが、出版の動機だった。

協会会員のように自分の死に方を自分で決めたい人が増えているだけに、「人の『死に方』は様々で体系化できない難しさはある



参加者の質問に答える発言者たち

が、医師が十分な情報提供をすることが必要だ」と語った。

協会会員でスクールカウンセラーをしている臨床心理士の荒木久恵さんは、「親の思いをいかに実現させたか」と題して、延命措置を断った両親に寄り添った体験を報告した。

愛知県知多郡東浦町でケアマネジャーをしている和田京子さんは、地域包括ケアシステムや介護保険制度、ケアマネジャーの役割など、参加者の知りたいことを分かりやすく説明してくれた。

最後に、参加者から「本人と家族の意見が違う場合」、「協会のカードと自作のものでは、医師への効果は違うのか」などの質問が出されて、意見交換が行われた。

診断の早期から緩和ケアを

東北支部（橋村襄支部長）の第3回リビングウイル研究会東北地方会（宮城県医師会、仙台市医師会など後援）が昨年11月26日、「地域で生活を支える緩和ケア」をテーマに、仙台市内の東北大学医学部に約50人が参加して開かれた。

東北大学大学院の井上彰教授（緩和医療学）は基調講演で、東北大学病院内の「緩和ケアセンター」の役割と活動を紹介した。

同病院は16年前、国立大学の病院としては初めて緩和ケア病棟を設



緩和ケアの大切さを語る井上彰教授

立した。2015年に井上教授が責任者となって作られた「緩和ケアセンター」は、診断の早期からの緩和ケアに欠かせない医療スタッフのスキルの向上と専門的な緩和ケアの充実を図っている。

がん治療の進歩は著しく、「治療と緩和ケアを真に融合させ、がん患者さんに『最善の治療』を提供する」ことを目指している。病院には、スピリチュアル（霊的な）痛みに対応する臨床宗教師もいる。

井上教授は「進行がん治療の大前提は『治癒』ではなく、『病勢の制御』で、病患に正しく向き合うことが、無理のない治療と穏やかな死につながる」と語り、緩和ケアで医療者の果たす役割は、患者が疾患を正しく理解するよう助け、治療の選択をサポートし、症状を管理し、「死に至る病」に正しく向き合える支援をすることだと言う。

続いて伊藤道哉支部理事（東北医科薬科大学医学部准教授）の司会で、佐藤富美子東北大学院教授（がん看護学）、藤田紀子支部理事（弁護士）も参加して議論した。

意味ある人生最期まで

がんで緩和ケアの必要な方が身近にいる人、緩和ケアのボランティアをしたい人らを対象にした「がんの緩和ケア連続講座」（東海支部後援）が、名古屋市中村区の「青木記念ホール」で開講中だ。

昨年11月12日には皮きりの公開講座「がんの緩和ケアってなあに？」が開かれた。長年、緩和ケアに尽力してきた渡邊正・東海中央病院名誉院長は、「色々な病気に罹りながらも、最期まで自分の人



渡邊正さん(左端)の話を聞く参加者ら

生を捨てずに、意味あらしめることが、私たちが緩和ケアを学ぶ最大の理由です」と語った。

発案者の青木仁子さん（77）は開講までのいきさつを説明した。青木さんは協会副理事長兼東海支部長当時の昨年2月、不治の病と診断され、余命宣告を受けた。

「死ぬまでの数週間、数か月、その間を豊かに生きていけるかどうかは、緩和ケアが充実しているかどうかにかかっている」と自らの体験で実感したのに、緩和ケアへの理解も普及も十分でないことから、自宅を一般財団法人にした「青木記念ホール」内に、主催する「緩和ケアを学ぶ会」を立ち上げた。

講座（定員30人）は3月11日まで全8回。受講受付は終了した。

テーマは、「緩和ケアの理解」意思を伝えることの大切さ」「コミュニケーションの基礎と技術」「大切な人を亡くすこととケア」「緩和ケアの活動について」など。趣旨に賛同する緩和ケアのベテラン看護師や看護学の大学教授、弁護士らが講師になっている。

文と写真 編集部・清水勝彦

生協「終活フェア」に出展

神奈川県生協連と（株）コープ総合葬祭が昨年11月1日に横浜市内で開催した第4回「生協のいきいき終活フェア」に、関東甲信越支部が初めてブースを出してリビング・ウイルを宣伝した。

会場には、尊厳死協会を始め、生前予約・葬儀信託、遺品整理、遺言・相続などに関わる団体や企業の15のブースが並び、300人を超す来場者でにぎわった。

支部からは丹澤太良支部長、支部理事ら5人が参加して、約30人から次々と質問や相談を受け、「入会のご案内」を手渡した。

「尊厳死のことを聞いたことがあう人、興味がある。会員になりたい」とその場で入会した方もいた。「期待以上に来場者が多く、尊厳死協会への反応も良かった。今後



次々とブースを訪れる来場者

長は語る。

神奈川県では、20の生協が出資して（株）コープ総合葬祭を設立し、生協組合員の視点から積極的に葬祭事業や「終活」に取り組んでいる。関東甲信越支部にも以前から出前講座の依頼が多くあり、その縁で今回の出展となった。

フェアでは、川崎医療生協の喜瀬守人医師が「最期まで自分らしく」をテーマに講演を行った。

同社の相田祐二社長は、「まだ死をタブー視して真正面から捉えられない人が多い。このフェアが、家族と話し合うきっかけになれば」と言い、尊厳死協会の参加を歓迎していた。

文と写真 編集部・清水勝彦

北陸支部

☎ 076-232-0900

✉ hokuriku@songenshi-kyokai.com

富山県リビングウイ 懇談会

テーマ「在宅・平穏死の時代を再現したい」

日程◎3月4日(土)午後1時～3時

会場◎富山市の富山県民会館704号室

進藤洋一支部長、喜多正樹支部理事(済生会金沢病院麻酔科部長)らと交えて、パネルディスカッション方式で話し合います。

会員以外の方もお問い合わせしてお出かけください

関西支部

☎ 06-4866-6365

✉ kansai@songenshi-kyokai.com

第12回サロン交流会

日程◎1月17日(火)午後1時半～3時半

会場◎支部事務所

テーマ「老後の健やかな生き方」
～3つのキーワードで考える～

定員◎15人(要予約 支部まで)

担当の西口英雄支部理事が30分ほどお話をした後、自由に話し合います。

定例サロンへのお誘い

日程◎毎週火曜日午後1時～4時半

1月10日、17日、24日、31日

2月7日、14日、21日、28日

3月7日、14日、21日、28日

会場◎支部事務所

協会のこと、終末期のこと、リビング・ウィルのこと、おひとりさまの生き方のこと……支部理事とお茶を飲みながらおしゃべりませんか。予約不要です。お気軽にお越し下さい。

関西支部事務所の案内

大阪市淀川区宮原4-1-16 新大阪北ビル7F

(新大阪駅から徒歩5分。御堂筋に出ると屋上にLIXILのオレンジ色の看板の見えるビルです)

サロンin本郷へお越し下さい。

地域サロンと内容は同じです、お茶を飲みながら皆さんでお話をする集まりです。

日程◎1月13日(金)、28日(土)午後1時半～3時

2月10日(金)、25日(土)同じ

3月10日(金)、25日(土)同じ

会場◎関東甲信越支部事務所(本部事務所内)

地下鉄丸ノ内線か大江戸線「本郷三丁目」

駅下車すぐ

こちら参加は無料ですが、電話予約が必要です。

お知らせ

会員さんからご要望もあり、本年1-3月は、「サロンin本郷」の開催日を従来の第2第4金曜日から第2金曜と第4土曜日の開催と試験的に変更します。平日お勤めの方でも参加可能な日程にしました。ぜひ多数のご参加を期待しています。

また、難聴者の方々に上記各種イベントに参加ご希望の方は支部までご一報下さい。可能な範囲で対応したいと考えます。

東海支部

☎ 052-481-6501

✉ tokai@songenshi-kyokai.com

第9回岐阜地区 リビングウイ 懇話会in大垣

日程◎2月5日(日)午後2時～4時

会場◎大垣市北地区センター・ホール(定員100人)

大垣市林町6(JR大垣駅より徒歩7分)

挨拶◎東海支部長 小林司

講演「終末期ケアの自己決定について」

講師◎益田雄一郎さん(みのかも西クリニック院長・東海支部理事)。著書に「死に方教本」(幻冬舎)

意見交換

日本医師会生涯教育認定講座(申請中)

後援◎岐阜県医師会、大垣市医師会、中日新聞社

地域サロン

日程◎2月13日(月)午後1時半～3時

会場◎青木記念ホール(名古屋市中村区中村中町

3-30、地下鉄中村公園駅徒歩5分)

尊厳死、終末期医療、在宅介護などで日ごろ感じたり、疑問や不安に思っていることを、お茶を飲みながら語り合いませんか。一般の方も歓迎です。参加希望者は支部へ連絡の上、お越し下さい。

旭川おしゃべりサロン

日程◎3月1日(水)午後1時～2時半

会場◎旭川市ときわ市民ホール

フリートークです。どなたもお出かけください

関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100

✉ kantou@songenshi-kyokai.com

公開講演会in所沢

日程◎3月9日(木)午後1時半～4時

会場◎所沢市民文化センター(ミューズ)小ホール

西武新宿線「航空公園」駅東口より徒歩10分

講演「あなたの終活、
間違っていないですか？」

講師◎長尾和宏 日本尊厳死協会副理事長
(医師、尼崎市長尾クリニック院長・東京医科大学、関西国際大学客員教授)『「平穏死」
10の条件』ほか著書多数

定員◎318人。先着順、入場無料

＜地域サロン＞のお知らせ

(参加無料・予約不要・先着順です)

本郷へはちょっと遠い、という方はこちらにどうぞ！皆様方の地元でも是非地域サロン開催を！
⇒お問い合わせは支部まで

地域サロンin新百合ヶ丘

日程◎1月30日(月)午後2時～4時

会場◎川崎市麻生市民館 第1会議室

小田急線新百合ヶ丘駅北口下車徒歩3分

地域サロンin川崎

日程◎2月21日(火)午後2時～4時

会場◎川崎市教育文化会館第5会議室

JR川崎駅東口下車徒歩15分

駅前から「教育文化会館前」下車の

バス便あり

地域サロンin溝の口

日程◎3月29日(水)午後2時～4時

会場◎川崎市高津市民館第5会議室

JR武蔵溝ノ口駅北口、

東急溝の口駅東口徒歩2分、

「ノクティ2」の12階



関西支部講演会in滋賀

2016年11月6日、大津市内で比叡山千日回峰を満行した光永覚道師が「良い人生だったと思える生き方」を語った。

東北支部

☎ 022-217-0081

✉ tohoku@songenshi-kyokai.com

第23回仙台駅横 リビング・ウィル交流サロン

日程◎1月20日(金)午後2時～3時半

テーマ「おひとりさま バンザイ

～寂しさもあるが、楽しいこともいっぱい」

会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室

(JR仙台駅西口、徒歩3分)

お友達をお誘いして、どなたでもどうぞ。無料
次回「交流サロン」は4月21日(金)、場所・時間は今回と同じです

北海道支部

☎ 011-736-0290

✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

おしゃべり広場

日程◎1月17日(火)、2月21日(火)、

3月21日(火)いずれも午前10時～正午

会場◎札幌エルプラザ 1月は4階研修室、2月は

3階OA研修室、3月は3階多目的研修室

それぞれ先着20人、予約は不要です

LWの受容協力医師

第 86 報

2016年9月～11月の間に新しく登録された医師の方々です。

[会]は会員医師

医療施設名	診療科	医師名(敬称略)	施設所在地	電話
小野内科胃腸科クリニック	内科、胃腸科	小野和彦	山形県村山市橋岡五日市14-25	0237-52-5050
長徳寺クリニック	整形外科、リハビリテーション科	中西耕三[会]	富山県射水市本町2-11-24	0766-84-7171
滋賀県立小児保健医療センター	耳鼻咽喉科	中井麻佐子[会]	滋賀県守山市守山5-7-30	077-582-6200
稲荷山武田病院	外科、緩和ケア科	堀 健	京都府京都市伏見区深草正覚町27	075-541-3371
京都東山老年サナトリウム	内科	戸田省三	京都府京都市山科区日ノ岡夷谷町11	075-771-4196
今泉クリニック	内科、胃腸科、放射線科	竹原満登里	兵庫県宝塚市逆瀬川2-4-3	0797-72-3864
だいとうクリニック	内科、緩和ケア科、終末期医療	大頭信義	兵庫県姫路市白銀町36-1 中ノ門シャポーホール2階	079-222-6789
あずま在宅医療クリニック	内科	東 英子	大阪府守口市紅屋町7-12 Annex Nakano1階	06-6991-8010
遠賀中間医師会 おかがき病院	内科、リハビリテーション科	竹之山利夫[会]	福岡県遠賀郡岡垣町大字手野145	093-282-0181
シャロンクリニック	内科	上門 一[会]	沖縄県那覇市首里石嶺町4-238-2 メディカルいしみな3F	098-884-1300

※LW受容協力医師名は、関西支部(6月公開予定)を除いて協会各支部ホームページで閲覧できます。

会員専用認証パスワードは「jsdd」です。

ご寄付ありがとうございました(敬称略)

秋山 孝	2,000	北林和子	2,460	富永マユミ	10,000	匿名	10,000
旭 忠子	90,000	木村 勇	10,000	中村良子	2,000	匿名	3,000
石井恵美子	1,000	小谷由紀子	2,000	長野貴美子	2,000	匿名	2,800
泉 和子	2,000	此川正昭	2,000	西村夫佐子	10,000	匿名	12,800
猪俣美代	30,000	齋藤喜美枝	31,057	西本千津	2,000	【北海道支部扱い】	
今井 昇	30,000	鹿 暢子	3,000	西 雅子	5,000	澤田 遙	10,000
岩崎稔子	10,000	島 周治	5,000	野口和子	3,000	千葉セイ子	2,000
臼井サチ子	8,900	菅波瑛子	10,000	萩原孝行・和子	3,000	盛 裕子	1,020
江崎政子	5,000	菅原 清	23,940	原田とよ子	2,000	沢口栄子	1,000
榎並他家治	10,000	鈴木ふみ子	1,000	原田千恵子	10,000	柴田笑子	5,000
大野節子	5,000	鈴木悦朗	13,010	春山黎子	10,000	工藤 睦	3,000
大崎壽美子	10,000	須永道子	500,000	福田聖・八恵子	2,000	合田文子	1,000
大田重子	4,000	高口惟子	2,800	藤原正雄	5,000	【東海支部扱い】	
片岡訓子	20,000	田川照夫男・嘉枝	2,000	古谷浩司	5,000	安田小夜子	5,000
片野八千代	1,900	田川隆夫	5,000	増井和義	30,000	【関西支部扱い】	
加藤静枝	50,000	田中幸枝	1,312	三科省三・登志子	2,000	千畑敏造・朝子	10,000
金子たま	10,000	長 京子	5,000	村田昭子	5,000	【四国支部扱い】	
川市 明	1,046	徳丸知代	1,900	矢野郁子	10,000	池田京子	10,000

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。

いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添えください。

皆さまのご協力、ご支援をお待ちしております。

医療相談
(通話無料)

0120-979-672 (月・水・金曜日
午後1時から5時)

病気や医療、特に終末期の医療について、心配ごとや困りごとを
専門の相談員がお聴きし、サポートいたします。

徳島県・リビングウイル徳島 懇談会

日程◎3月25日(土) 午後1時半～4時

会場◎ふれあい健康館第2会議室

(徳島市沖浜東2-16)

第1部:講演

「公証役場では何ができるの?」

講師◎若井伸一氏(徳島公証役場公証人)

第2部:意見交換会

「尊厳死の宣言書等は役に立つのか?」

問い合わせ:四国支部徳島事務所 麻野信子

☎(088-692-3457)、FAX(088-692-6044)

どなたでもお気軽にお越しください。入場無料

九州支部

☎ 092-724-6008

✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

みやざき公開講演会

日程◎1月14日(土) 午後1時20分～4時

会場◎ウエルネス交流プラザ1階

茶霧茶霧ギャラリー(宮崎県都城市蔵原
町11街区25号)

開会挨拶

◎小林浩二 支部みやざき理事
メディカルシティ東部病院副院長

会長講演

「肝臓外科医からみた尊厳死」

◎東 秀史 支部みやざき会長
メディカルシティ東部病院病院長

特別講演

理想の終焉をめざして～

「尊厳死(平穏死)のすすめ」

◎原 信之 協会理事・九州支部長
国立福岡東医療センター名誉院長

定員◎先着120人、会員以外の方も歓迎します
ので、お問い合わせください。

主催◎支部みやざき

後援◎宮崎県、都城市、三股町、都城市北諸県
郡医師会

四国支部

☎ 089-993-6356

✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

第3回日本リビングウイル 研究会四国地方会

日程◎2月12日(日) 午後1時半～4時半

会場◎近森病院管理棟3階

高知市北本町1丁目1-28

(JR高知駅から徒歩5分)

テーマ「いい人生だった
ありがとう」と終えるために
～人生の最期をどこでどのように～

1. 講演

「家族を幸せに看取るために
すべきこと」

◎長尾和宏・協会副理事長、関西支部長、
長尾クリニック(尼崎市)院長

2. パネルディスカッション

座長◎北村龍彦 支部副支部長、支部高知代表

パネラー

◎岡林弘毅氏 高知県医師会会長
◎松本務氏 あおぞら診療所医師
◎筒井早智子氏 高知県自治研究センター理事長
◎小松倫子氏 訪問看護ステーション土佐所長

コメンテーター

◎長尾和宏氏
一般公開、会員以外の方もどうぞ

第3回エンディングノート講座

日程◎3月8日(水) 午前10時～11時

会場◎松山市の支部事務所

講演◎「介護について学ぶ
～在宅での看取り～」

講師◎金田由美子氏
愛媛県在宅介護研修センター長

定員◎20人(先着順、支部までお申込み下さい)

支部サロン

日程◎1月6日(金) 午後1時半～3時半

「新春お茶会」

日程◎2月3日(金) 午後1時半～3時半

3月3日(金) 午後1時半～3時半

会場◎いずれも松山市の支部事務所

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@songenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.songenshi-kyokai.com
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目6 37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811 仙台市青葉区一番町
1-12-39 旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033 東京都文京区
本郷2-27-8 太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海支部

〒453-0832 名古屋市中村区
乾出町2-7 正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●北陸支部

〒920-0902 金沢市尾張町1-7-1
山崎法律事務所内
TEL 076-232-0900
FAX 076-232-0932

●関西支部

〒532-0003 大阪市淀川区
宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024 広島市中区
西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067 松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001 福岡市中央区
天神1-16-1 毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

尊厳死の宣言書

(リビング・ウイル Living Will)

私は、私の傷病が不治であり、かつ死が迫っていたり、
生命維持措置無しでは生存できない状態に陥った場合に
備えて、私の家族、縁者ならびに私の医療に携わってい
る方々に次の要望を宣言いたします。

この宣言書は、私の精神が健全な状態にある時に書い
たものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私自身
が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成しない限
り有効であります。

●私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ
り、既に死が迫っていると診断された場合に
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延
命措置はお断りいたします。

●ただしこの場合、私の苦痛を和らげるために
は、麻薬などの適切な使用により十分な緩和
医療を行ってください。

●私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ
てください。

以上、私の宣言による要望を忠実に果たしてくださ
った方々に深く感謝申し上げるとともに、その方々が私の
要望に従ってくださった行為一切の責任は私自身にある
ことを付記いたします。

リビング・
ウイルの勧め
日本尊厳死協会は、命の終わ
りが近づいたら延命措置を望ま
ないで、自然の摂理にゆだねて
寿命を迎えるご自分の意思を表
したリビング・ウイル「尊厳死
の宣言書」を発行、その普及に
努めています。
現在11万人を超す方々がリビ
ング・ウイルを持ち、安心した
日々を送っています。自然のま
ま寿命を迎えることは、最期の
日々をよりよく生きることであ
り、今を健やかに生きること
につながります。
お友だちやお知り合いに協会
や「宣言書」のことをお伝え
いただければと願っています。

事務局から

会費の自動払込の案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から
自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがあり
ますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。
次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ 希望の会員
払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(4月払込の方
なら4月28日に引き落とし)
払 込 額 ▶ 会費相当額
手 数 料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)の
ご負担があります
取扱 金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、
ゆうちょ銀行、農協含む)
領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可
能です。会報が緑色のビニール封筒で届いたら年会費の納入
時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷してあり
ます。

📷 今号の1枚『迎春』



初日の出
ありがとう
出会ったあなた
ありがとう
大自然の恵み
ありがとう

●座談会を終えて自分の車に
乗ろうとした元首相は忘れ物
に気づきました。バッグを手
に戻りながら、私を見て「バ
ッグを忘れるようじゃあ、俺
も終わりだなあ」と笑いかけ
ました。その10日後、新潟市
で講演し、県知事、新潟市長
とともに「原発ゼロ」を呼び
かける写真を新聞で見ました。
「終わり」どころか小泉純一
郎さんは元気いっぱい。今号
座談会でもその一端がうかが
えます。(白井)
●会員の皆様に協会のことを
知っていただきたい。会報の
編集方針に協会活動の「見え
る化」があります。そのひと
つが「支部活動・最前線」の
ページで、全国9支部を取材
で訪れます。その度に支部を
担う理事と事務局の方々の、
尊厳死普及にかける熱い思い
と粘り強い取り組みに頭が下
がります。尊厳死協会はこう
した地道な弛まぬ活動に支え
られているのです。(清水)

Living Will 目次 — 会報2017年1月 No.164 —

- 02 特別座談会
小泉純一郎元首相
最期をライオンのように
- 08 年頭所感 理事長 岩尾總一郎
多死社会こそLWの存在感を
- 10 療養14万病床の
廃止・転換計画
- 12 ●LWのひろば
- 14 ●支部活動 最前線
九州支部くまもと「市民フォーラム」/
四国支部「エンディングノート講座」/
東海支部第3回LW研/
「緩和ケア学び隊」連続講座/
東北支部第3回LW研/
関東甲信越支部「終活フェア」
- 17 ●支部活動 2017 冬～春
- 21 LW受容協力医師/ご寄付/
「医療相談」
- 22 事務局から/編集後記/目次
- 23 尊厳死の宣言書/本部支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員:11万3633人
(2016年12月5日現在)

次号は、
2017年4月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記